

ASEAN グローバルプログラム に参加して

福垣 沙英
Sae FUKUGAKI
機械システム工学科 2年

1. はじめに

2018年8月28日から9月6日にかけて、ASEAN グローバルプログラムに参加し、ベトナムとシンガポールの2ヶ国を訪問した。現地では、PBL、企業や大学の訪問、講演会などの研修を行えた。具体的なプログラムの日程は表1のとおりである。

表1 日程

8月28日(火)	ベトナム着, オリエンテーション
8月29日(水)	企業訪問
8月30日(木)	PBL(リサーチ)
8月31日(金)	PBL(リサーチ, 発表)
9月1日(土)	文化施設見学, 自由時間
9月2日(日)	シンガポール着, 講演会
9月3日(月)	南洋理工大学訪問
9月4日(火)	企業訪問, 交流会, 講演会
9月5-6日	自由時間, 帰国

2. 参加目的

私が今回このプログラムに参加した目的は、将来就職し、海外との交流が必要になるための、今のうちからグローバルな環境で働くとはどういうことかを少しでも多く理解することだった。母親が何度か海外へ出張に行ったこともあり、海外の方々と仕事をするのは珍しいわけではないという認識はあり、今後、私もそのような立場になったときのビジョンを持つ為の基盤となる経験にしたかった。それに、「英語をもっと勉強していれば」という声をよく聞くが、自分はまだそう思うことがなかったので、実際に会話に支障が出る不便さを体験すること

で、英語学習のモチベーションにも繋がるだろうと考えたことも理由の一つである。

3. 研修内容

研修プログラムの中で、ここでは特に興味深かったシンガポールでの企業訪問について述べる。シンガポールでは、WASABI Creation社とGoogle Singapore社の2つの企業の方からお話を伺えた。

まず、9月2日にWASABI Creation社のCEOであるTong氏による講演会が行われた。WASABI Creation社はシンガポールと日本やASEAN諸国との間でビジネスチャンスを創る活動をしている会社である。Tong氏は主に、シンガポールの歴史や文化、そこでの働き方について詳しくお話して下さった。その中で特に印象に残った話が2つある。

1つ目は、違う民族同士が共に生活できる環境があることだ。シンガポールは多民族国家であり様々な人が生活している。普通ならば同じ民族で集まりがちになるらしいが、シンガポールにはそれを防ぐ役割も担っているHDB(Housing Development Board)という公営住宅があるとのことだった。HDBでは、一つの棟や区画に特定の民族が固まる事を禁じているため、様々な民族が共に生活をしているとのことであった。違う民族が同じ場所で生活することで、お互いに理解が深まり、寛容になれるよう促しているようだ。私はこれを聞き、多民族国家ならではのシステムであると感じた。自分とは違う文化の中で生活する人たちを排除するのではなく、受け入れるのは、難しいがとても大切なことだと思う。講演では例として、ある広場を葬式のために利用する民族もいれば結婚式に利用する民族もいるとの紹介があり、お互いにある程度の不快や不便さを受け入れる寛容さが鍛えられると感じた。グローバル社会において、HDBのような様々な人がお互いを受け入れあえる環境作りは必要不可欠だと感じた。

2つ目は、海外に行くことで、ある意味で逆に母国について知ることができるといえるものである。実



Tong 氏による講演会

際に私も今回ベトナムとシンガポールを訪れ、そのことをひしひしと感じた。分かりやすい例では、食文化の違い、すなわち味の好みの違いについても、味わったことがない味を体験することで自分の物差しの幅が広がり、自分を含め日本にはこういう味を好む人が多かったのか、と、日本の味を客観的に理解できた。生活様式の違いから、今まで当たり前と思っていたことは当たり前ではなかったのかと衝撃を受けることもあった。さらに、働くことに対する意識も違うことを少しではあるが感じる事ができた。そういった母国とほかの国の違いを理解することが、多様性というものに繋がってくると思った。自分の中の当たり前を捨てることで相手を受け入れる姿勢ができると思ったからである。

9月4日には Google Singapore 社を訪問した。Google は世界中にオフィスを構えており、シンガポール支社はその中の1つである。やはり社員は多国籍であり、シンガポールらしさを感じることができた。そして、そこでは主に Google の活動スタンスや次の目標などのお話を伺えた。衝撃を受けたのは、「収集した各種の統計を、企業に売るなどは考えないのか？」という質問に対する「それはあまり考えていない。誰でも好きにアクセスし、そこで得た情報から商品を作る人が現れる、というほうが最終的にお互いのためかもしれない」という返答だった。小さく儲けられる事ではなく、もっと大きな規

模で企業活動を考えていると感じた。そもそも Google の目標は「世界中の人が使える」であり、ミッションは「ユーザーのため」というものであることがそうさせているのかも知れないが、そのスタンスを崩さないのは簡単ではないはずである。しかし、ユーザーが多様な情報にアクセスし、そこからまた新たな情報が生まれ、次に繋がるという循環ができる。そうやって企業の発展を、未来を見渡す目で見て判断するのも大切であると感じた。将来私が働くようになったとき、そういった長い単位で見据えることは必要になってくるだろうと勉強になった。それに、Google の収入源は主に広告収入であるらしい。商品を作り、それを売るという単純なシステムではないだけに、私が考えてもないような目線で商品を作っていると驚かされた。やはりそれも先を見据えることが重要となる理由の一つだと理解した。

4. おわりに

今回このプログラムに参加して、PBL や企業訪問など、観光旅行ではできない体験がたくさんできた。グローバル社会において受け入れるべきことや、実際に仕事をするにあたっての心持ちなどを直接聞いたことは、さらに自分なりに噛み砕いて身につけたい。少なくとも、今後様々な人と生活することになったときにお互いを理解する姿勢や、働くことへの姿勢を今のうちから考える必要があると感じた。

話を伺った全ての方がどこかで大きな決断をしていたのと同時に、その挑戦のハードルは決して高くはないと窺うことができた。やりたいことがあれば行動、やる前に悩むよりやってみてから悩むほうがいいかもしれないと思えた。失敗を過剰に恐れず、様々な可能性を視野に入れて、今後進む道を決めていきたいと思った。